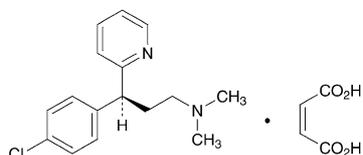


d*-マレイン酸クロルフェニラミンd*-Chlorpheniramine Maleate*d*-クロルフェニラミンマレイン酸塩 $C_{16}H_{19}ClN_2 \cdot C_4H_4O_4$: 390.86*N*-[(3*S*)-3-(4-Chlorophenyl)-3-pyridin-2-ylpropyl]-*N,N*-dimethylamine monomaleate [2438-32-6]

本品を乾燥したものは定量するとき、*d*-マレイン酸クロルフェニラミン ($C_{16}H_{19}ClN_2 \cdot C_4H_4O_4$) 99.0 % 以上を含む。

性状 本品は白色の結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。

本品は水又は酢酸 (100) に極めて溶けやすく、*N,N*-ジメチルホルムアミド、エタノール (95) 又はクロロホルムに溶けやすく、ジエチルエーテルに極めて溶けにくい。

確認試験

(1) 本品 1 mg を水 5 mL に溶かし、ドラーゲンドルフ試液 2 mL を加え、振り混ぜるとき、赤だいたい色の沈殿を生じる。

(2) 本品 0.5 g を水 5 mL に溶かし、アンモニア水 (28) 2 mL を加え、クロロホルム 5 mL ずつで 3 回抽出し、水層を分取し、蒸発乾固した後、残留物に希硫酸 1.5 mL 及び水 5 mL を加え、ジエチルエーテル 25 mL ずつで 4 回抽出する。全ジエチルエーテル抽出液を合わせ、35 °C の水浴中で空気を送りながらジエチルエーテルを蒸発して得た残留物の融点は 128 ~ 136 °C である。

(3) 本品を乾燥し、赤外吸収スペクトル測定法のペースト法により試験を行い、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波数のところと同様の強度の吸収を認める。

吸光度 $E_{1\%}^{1\text{cm}}$ (265 nm) : 210 ~ 220 (乾燥後, 5 mg, 0.25 mol/L 硫酸試液, 250 mL)。

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$: +39.5 ~ +43.0 ° (乾燥後, 0.5 g, *N,N*-ジメチルホルムアミド, 10 mL, 100 mm)。

pH 本品 1.0 g を新たに煮沸して冷却した水 100 mL に溶かした液の pH は 4.0 ~ 5.0 である。

融点 111 ~ 115 °C

純度試験 溶状 本品 1.0 g を水 50 mL に溶かすとき、液は無色澄明である。

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 65 °C, 4 時間)。

強熱残分 0.15 % 以下 (1 g)。

定量法 本品を乾燥し、その約 0.3 g を精密に量り、酢酸 (100) 20 mL を加えて溶かし、0.1 mol/L 過塩素酸で滴定する (指示薬: クリスタルバイオレット試液 2 滴)。ただし、滴定の終点は液の紫色が青緑色を経て緑色になるときとする。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1 mol/L 過塩素酸 1 mL = 19.543 mg $C_{16}H_{19}ClN_2 \cdot C_4H_4O_4$

貯法

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。

マレイン酸クロルフェニラミン散

Chlorpheniramine Maleate Powder

クロルフェニラミンマレイン酸塩散

本品は定量するとき、表示量の 93 ~ 107 % に対応する *dl*-マレイン酸クロルフェニラミン ($C_{16}H_{19}ClN_2 \cdot C_4H_4O_4$: 390.86) を含む。

製法 本品は「マレイン酸クロルフェニラミン」をとり、散剤の製法により製する。

確認試験

(1) 本品の表示量に従い「マレイン酸クロルフェニラミン」0.05 g に対応する量を取り、0.1 mol/L 塩酸試液 40 mL を加えて振り混ぜ、ろ過する。ろ液を分液漏斗に移し、クロロホルム 40 mL で洗う。次に水酸化ナトリウム試液 10 mL を加え、ヘキサン 20 mL で抽出する。ヘキサン層に水 5 mL を加え、水洗する。必要ならば遠心分離し、ヘキサン抽出液を無水硫酸ナトリウム 0.5 g を加えて数分間振り混ぜ、ろ過する。ろ液 5 mL をとり〔残りのろ液は (3) の試験に用いる〕、ドラーゲンドルフ試液 2 mL を加え、振り混ぜるとき、赤だいたい色の沈殿を生じる。

(2) 本品の表示量に従い「マレイン酸クロルフェニラミン」0.05 g に対応する量を共栓フラスコにとり、ジエチルエーテル 20 mL を加え、しばしば振り混ぜて 10 分間放置した後、エーテルを傾斜して除く。残留物にジエチルエーテル 20 mL を加え、しばしば振り混ぜ 10 分間放置し、ジエチルエーテルを傾斜して除き、更にこの操作を 1 回繰り返す。残留物に水 20 mL を加えて溶かし、15 分間振り混ぜた後、遠心分離する。上澄液を分液漏斗に移し、クロロホルム 40 mL ずつで 2 回抽出する。クロロホルム抽出液を合わせ、活性炭 0.01 g を加え、数分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液に空気を送りながら約 40 °C の水浴中で加温してクロロホルムを蒸発し、残留物に 2-プロパノール 0.2 ~ 0.3 mL を加え、よく振り混ぜた後、ジエチルエーテル 10 mL を加え、必要ならばガラス棒で器壁を軽くこすり、静置した後、上澄液を除き、残留物をデシケーター (減圧, シリカゲル) で 1 時間乾燥するとき、その融点は 128 ~ 135 °C である。

(3) (1) のろ液の残りを約 50 °C の水浴中で減圧留去して得た残留物につき、赤外吸収スペクトル測定法の液膜法により測定するとき、波数 2940 cm^{-1} , 2810 cm^{-1} , 2770 cm^{-1} , 1589 cm^{-1} , 1491 cm^{-1} , 1470 † , 1434 cm^{-1} , 1091 cm^{-1} 及び 1015 cm^{-1} 付近に吸収を認める。

定量法 本品のマレイン酸クロルフェニラミン ($C_{16}H_{19}ClN_2 \cdot C_4H_4O_4$) 約 3 mg に対応する量を精密に量り、100 mL の分液漏斗に入れ、0.05 mol/L 硫酸試液 20 mL を加えて 5 分間振り混ぜ、次にジエチルエーテル 20 mL を加えてしばしば振り混ぜ、5 分間放置する。必要ならば遠心分離し、水層は乾燥ろ紙を用いて別の分液漏斗にろ過する。ジエチル